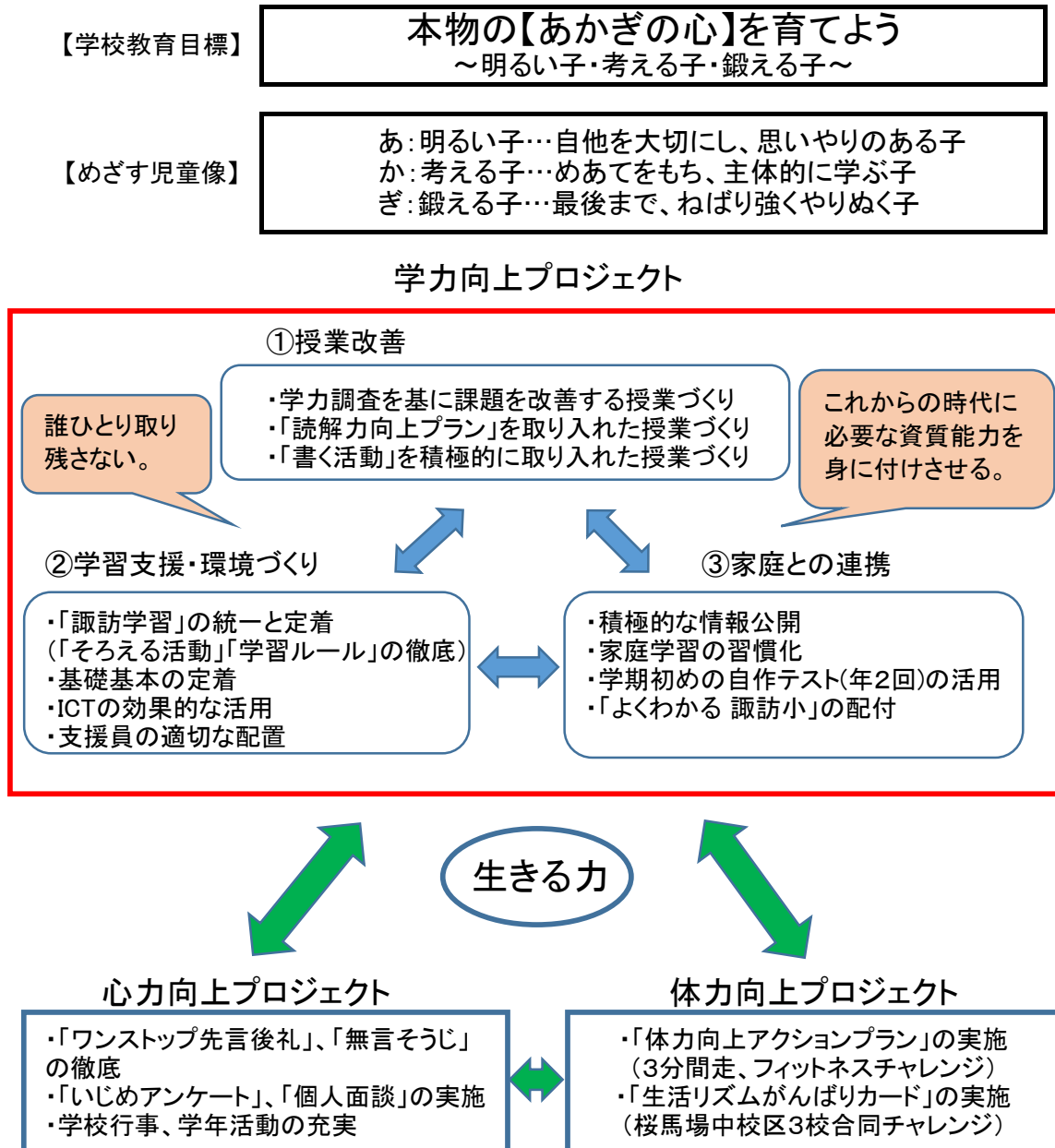


令和5年度 諏訪小学校学力向上プラン

1. 目的

長崎市第五次総合計画、第四次長崎市教育振興基本計画の中に「確かな学力の向上」を掲げられている。それらを受け、本校でも目標の具現化に向けて、学習指導の研究を中心としながら、全職員の協力体制を整える。そこで、研究テーマを「主体的・対話的に、そして深く学ぶことができる児童の育成」として、授業改善を中心に課題克服に向けた共通実践を図ることを目的とする。

2. 学力向上に向けた構想図



3 学力調査での課題

＜国語＞	＜算数＞
<ul style="list-style-type: none"> ▲図表やグラフを用いて書き表し方を工夫する力 ▲文章内容を理解し、自分の考えをまとめる力 ▲漢字を文の中で正しく使う力 	<ul style="list-style-type: none"> ▲数や言葉を用いて考えを説明する力 ▲表から変化の特徴を読み取る力 ▲図形の意味や性質についての理解

4 課題改善に向けた取組

①授業改善

〈国語〉

- 「書く活動」を取り入れた単元構成を考える。
 - ・キーワード、制限時間などを入れた条件作文や、自分の考えを加えた短作文に取り組む。(書くことが苦手な児童については、「穴埋め形式」や「選択式」など、ワークシートを工夫する。)
 - ・書いた文章を見直し、既習の漢字を正しく使えているか確認する時間を確保する。
- 複数の資料を用いた学習を行う。
 - ・教材文の「構成」を考える活動を取り入れる。(複数の資料を扱うことの良さを実感させる)
- 「読解力育成プラン」を意識した取組を行う。
 - ・「係り受け解析」…文の基本構造(主語・述語・目的語、修飾語など)を把握する取組を行う。

〈算数〉

- 問題文を読んで、情報を整理する。
 - ・「分かっていること」「尋ねていること」に線を引き、整理して考えることができるようにする。
- 日常生活の事象と関連付ける。
 - ・学習のまとめで日常生活へフィードバックする場面を仕組み、より深く内容の理解を促す。
- 「読解力育成プラン」を意識した取組を行う。
 - ・「イメージ同定」…問題文を基に、ブロックや○図、テープ図や数直線などの具体物や図を使って表し、それらを使って言葉で説明できるようにする。

〈全教科〉

- 学習ルールの徹底
 - ・授業開始のあいさつと共に「3人発表」を行い、前時までの学習を振り返る。
 - ・子供とともに「めあて」と「まとめ」をつくり、主体的な学びへとつなげていく。
 - ・視点をもった対話活動を行うことで、協働的な学びにつなげていく。
 - ・可能な限り、「振り返り」の時間を設け、次時の活動につなげていくようにする。

②学習支援・環境づくり

- 「そろえる」取組(「あかぎの構え」)の実施
 - ・筆箱の中や机の上に準備するものなど、学習環境の統一を図る。
 - ・授業終了後に次の学習の準備を行い、授業開始前は「1分前着席」の習慣化を図る。
 - ・「話型」や「聴型」を教室に掲示し、共通実践する。
- 基礎基本の定着
 - ・週1回「読書タイム」と「スキルタイム」を実施し、本を読む楽しさやできる喜びを味わわせる。
- ICTの効果的な活用
 - ・Chromebookを使って、主体的、協働的な学びを促す。
 - ・学習支援アプリ(キュビナ)を用いて、個別最適化な学びを促す。
 - ・電子黒板、デジタル教科書を有効に活用し、教材準備の効率化を図る。
- 支援員の適切な配置
 - ・支援員、少人数指導や専科などを効果的に配置し、多くの目で子供たちの学びを支える。
 - ・学校サポーターを2名配置し、週2回、宿題の丸つけや、授業での学習支援を行う。
 - ・ICT支援員を計画的に配置し、子供たちのコンピューターリテラシーを高める。

③家庭との連携

- 積極的な情報公開
 - ・学校だより、学年だより、ホームページなどを用いて、子供たちの学習の様子を伝えていく。
- 家庭学習の習慣化
 - ・家庭との連携を図り、音読や丸付けなど、保護者と協力しながら家庭学習を進めていく。
 - ・学級通信などを使って、「漢字」や「計算」など、家庭での学び方を伝えていく。
 - ・「宿題提出100%」を実践する。
- 「よくわかる諏訪小」の配付
 - ・学習や生活面での共通実践事項を「よくわかる！諏訪小」としてまとめ、保護者に配付し、共通理解を図る。
- 学期初めの確認テスト(年2回)の実施
 - ・年2回「漢字・算数コンテスト」を実施し、長期休業中の学習の目的を意識させる。